

第11回 廃炉創造ロボコン

実施要項



廃止措置人材育成高専等連携協議会

1. 大会概要

(1) 目的

東京電力福島第一原子力発電所の廃止措置等については、「東京電力福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」に基づいて、現在様々な取組が進められてきている。また、中長期ロードマップでは、「中長期の視点での人材育成及び大学・研究機関との連携」が強調されている。

廃炉について、若い世代に関心を持ってもらうためには、ロボットを通じた教育・人材育成が効果的である。一方、各高专では、すでに多国籍チームによる”ものづくり”を Project 形式で行うといった、国際汎用性を意識した多様なPBL (Project Based Learning)教育が展開されている。また、メタ認知能力を高めるアクティブ・ラーニングに関しても、すでに様々な実践が行われている。このような主体的な学びを通じて、汎用的能力はもちろんのこと、事実等に隠れている問題点やその要因を発見し解決すべき課題を設定する力、また、その課題の解決策を導く能力は、今後の社会を担う若者達にとっては、最重要な能力の一つと考えられる。さらに、そのような実践的な課題発見能力、課題解決力は、机上の論によるものではなく、実際の社会で起きている課題に取り組むことによってこそ身につけられるものである。

本ロボコンは、文部科学省の英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業の成果を踏まえて実施するものである。また、廃止措置に係る廃炉そのものを Project の題材としたPBL教育そのものであり、ロボット製作を通じて学生に廃炉に関する興味を持たせると同時に、学生の創造性の涵養に貢献し、課題解決能力のみならず課題発見能力を養うことを目的としている。

今回は、福島第一原子力発電所原子炉格納容器内部調査が課題である。優れたロボットやアイデアに関しては、現場適用や関係企業との共同研究につながる可能性があることを前提にロボット開発をして頂きたい。

(2) 実施概要

名 称	第11回廃炉創造ロボコン
日 時	2026年12月19日(土)
場 所	日本原子力研究開発機構 楢葉遠隔技術開発センター
主 催	日本原子力研究開発機構 廃止措置人材育成高専等連携協議会
後 援	調整中
協 賛	募集中
協 力	東京電力ホールディングス株式会社 東双みらいテクノロジー株式会社
事 務 局	福島工業高等専門学校
運 営	廃炉創造ロボコン実行委員会

(3) 主要スケジュール

3月 6日(金)	課題公開・参加者募集
4月17日(金)	参加申込書, アイデアシート提出締め切り
4月24日(金)(予定)	書類選考
5月 8日(金)	書類選考結果発表
8月27, 28日	楢葉サマースクール(28日 1F 視察)
12月17日(木)	受付・オリエンテーション・テストラン
12月18日(金)	テストラン・ヒアリング
12月19日(土)	廃炉創造ロボコン

2. 課題概要

(1) 競技課題

• ロボットが遂行する課題

福島第一原子力発電所原子炉格納容器（PCV）内部調査を想定した競技を実施する。内部調査は、X-1 ペネから PCV 内部にアクセスし、底部に存在する堆積物を回収して戻ってくる（図 1, 2 参照）。

本コンテストにおいては以下の通りとする。

- ①X-1 ペネを模した配管内からスタートし、配管を通過する。
- ②幅 0.8mの狭隘部を通過した後に、今回設置されている2つの階段（急階段もしくは低斜度階段）のいずれかをロボットが降りてフロアに到達する。
- ③堆積物を回収し、行きで降りた階段を登ってスタート地点である配管内まで戻ってくる。
- ④課題設定の基となった実際の内部調査を鑑み、競技では必ずロボットが階段を登り降りすることとし、ロボットアームでの階段上からの堆積物回収及びドローンの使用は認めない。

• 競技フィールド

- ①競技フィールドの概要を図 3 に示す。
- ②X-1 ペネを模した配管のサイズはφ600（VU 管 600A、φ600×1500）である。
- ③競技のスタート位置は配管内とし、ロボット最後部と配管の最後部を揃えた形でのスタートとする。なお、配管より長い場合はロボット最前部と配管の最前部を揃えた形でのスタートとする。
- ④階段手前に 0.8mの狭隘部が設定されている（木材等を固定）。
- ⑤急階段の詳細を図 4、図 5 に示す。
- ⑥階段踊り場はグレーチングとなっている。なお、グレーチング寸法を図 6 に示す。
- ⑦堆積物は、一辺 30mmの亚克力製立方体と形状不明（30mm 角程度）とする。

• フィールド環境

- ①ロボットを遠隔で操作するため、本体を直視することができない。
- ②ロボットの制御は有線のみとする。
- ③オペレーションエリアから競技フィールドは完全に見えない。

• ロボットの大きさ、重量

- ①大きさ：制限は設けない。
- ②重量：制限は設けない。

(2) 競技形式

10分の実演とする。ただし、テストラン中に審査員が各ピットを訪問し、学生に対して独創性・アイデアを確認するための質疑応答を実施する。

(3) チーム構成

1チームは、同じ高専の学生3名の選手と指導教員の計4名を基本とするが、ピットクルー3名の登録も認める。各高専の状況に応じ学生数を減らしての参加も認める。なお、指導教員が認めれば複数高専の連合チームも参加を認める。

ピットクルーはロボットの調整等をサポートする者であるため、競技中は競技エリアおよびオペレーションエリアへの侵入は認めない。

(4) 表彰（予定）

最優秀賞（文部科学大臣賞）	1件
優秀賞（福島県知事賞）	1件
アイデア賞（高専機構理事長賞）	1件
技術賞（原子力機構理事長賞）	1件
特別賞（協賛企業賞）	5件程度

なお、最優秀賞を獲得したチームには副賞として海外研修を贈呈する。

(5) 評価について

各チームの評価は、下記の通りとする。

①狭隘部の通過	10点（往路5点、復路5点）
②階段下に到達	20点（低斜度階段は最大10点）
③回収操作	20点
④階段上に到達	20点（低斜度階段は最大10点）
⑤スタート位置への帰還	10点
⑥独創性、アイデア	20点

3. 参加方法

(1) 応募書類提出

所定の様式にアイデアを記載し、E-mailにより事務局に提出する。

送付先 liaison_office@fukushima-nct.ac.jp

締切 2026年4月17日(金) 17:00必着

※実行委員会で応募書類を審査し、結果を応募チームに通知します。

※参加が認められたチームに対しては、ロボット製作費を最大30万円補助します。

※累積参加回数2回目までの参加校は最大40万円とします。

※選手と指導教員が大会や研修に参加するための旅費は高専機構旅費規程に従って事務局から支給します。ピットクルーについては各校負担とします。

(2) 参加申込書類提出

- 本競技への参加者(指導教員, 選手, ピットクルー)を登録します。
- 応募書類と共に参加申込書を2026年4月17日 17:00までに提出してください。
- 書類選考を通過した場合, 参加登録した学生は8月下旬実施予定の檜葉サマースクールへ参加してもらいます。

4. その他

- 協賛企業から, ロボット製作に関してスケジュール管理やアドバイスをしてもらうために学生メンターを派遣してもらい, 定期的に指導を受けてもらいます。
- 大会当日のロボットや工具等の輸送は, 事務局で手配するJITBOXチャーター便に限定します(内寸104cm×104cm×170cm, 輸送費は事務局負担)。
- 競技課題等に関する質問等は, 指導教員から下記に問い合わせてください。
- 問い合わせ先 廃炉創造ロボコン事務局 liaison_office@fukushima-nct.ac.jp
- 本コンテストに参加したチームは2027年2月下旬に開催予定の第12回次世代イニシアティブ廃炉技術カンファレンス(NDEC-12)での発表(口頭もしくはポスター)を必須とします(学事日程と重複した場合は要相談)。
- 本コンテストの実施は原子力機構との委託契約締結が前提となっています。契約が締結できなかった場合は実施しない場合があります。
- サマースクールや大会当日に撮影した写真や動画は, 必要に応じて報道各社に提供する場合があります。参加申し込みと同時に承諾したものと扱います。

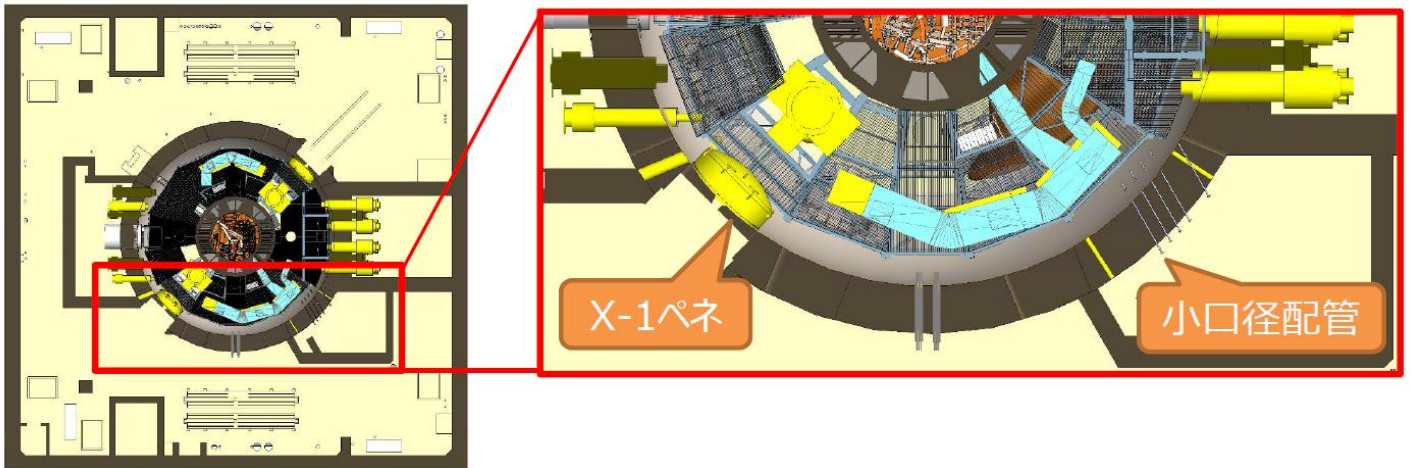


図1 PCV 内部調査の対象箇所

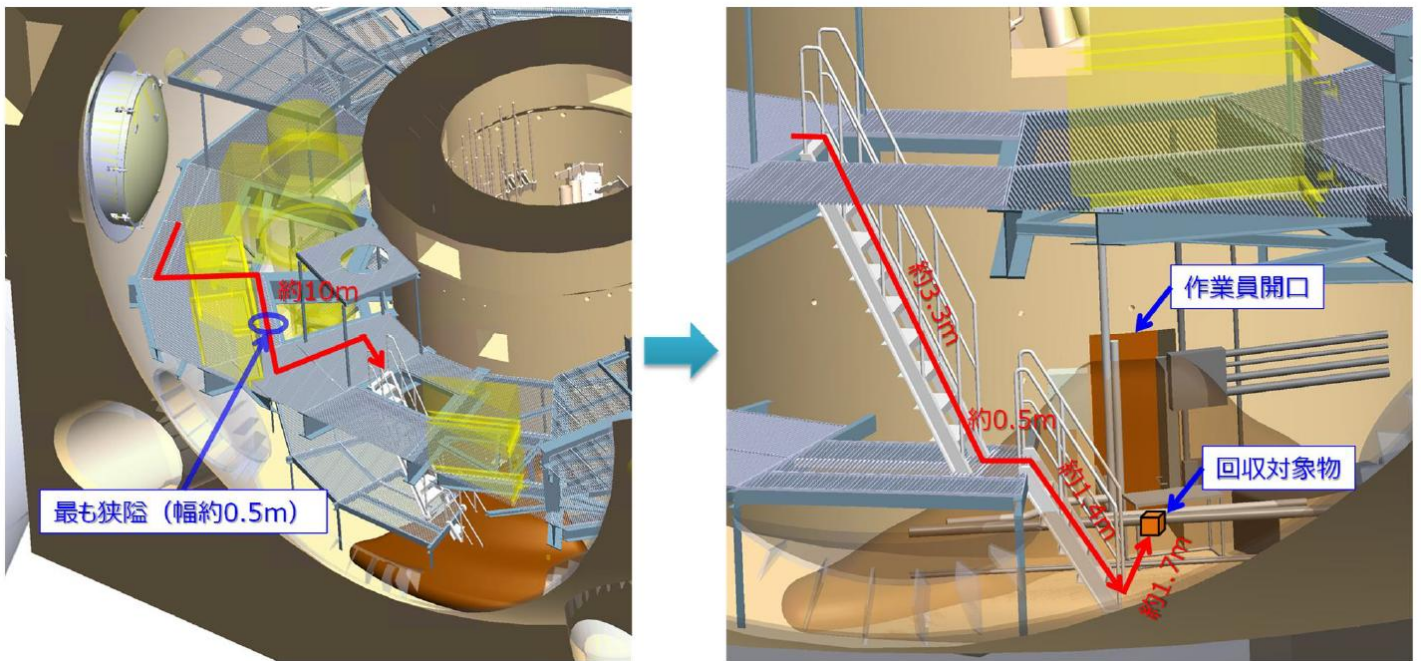


図2 X-1 ペネからのアクセスイメージ

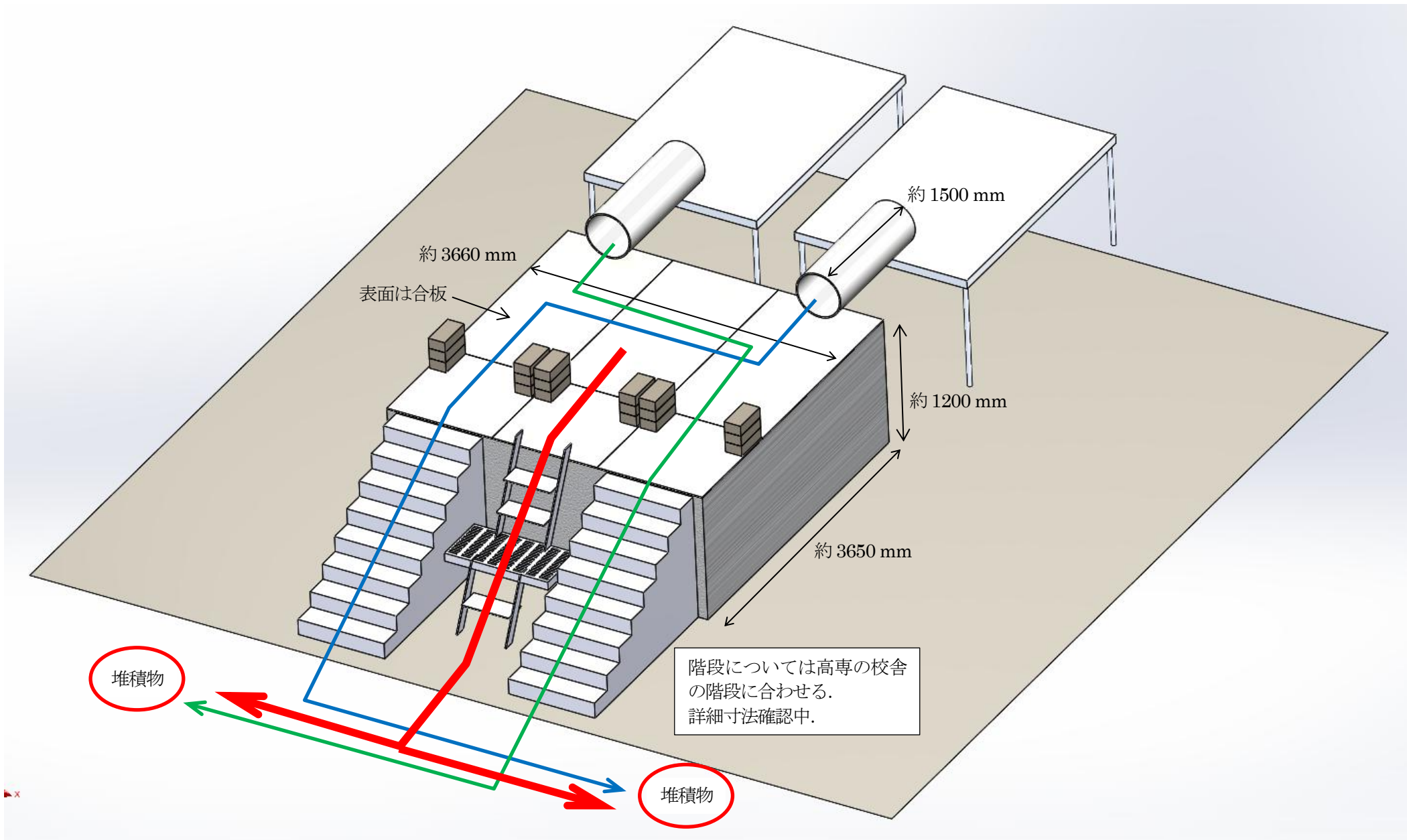


図3 競技フィールド

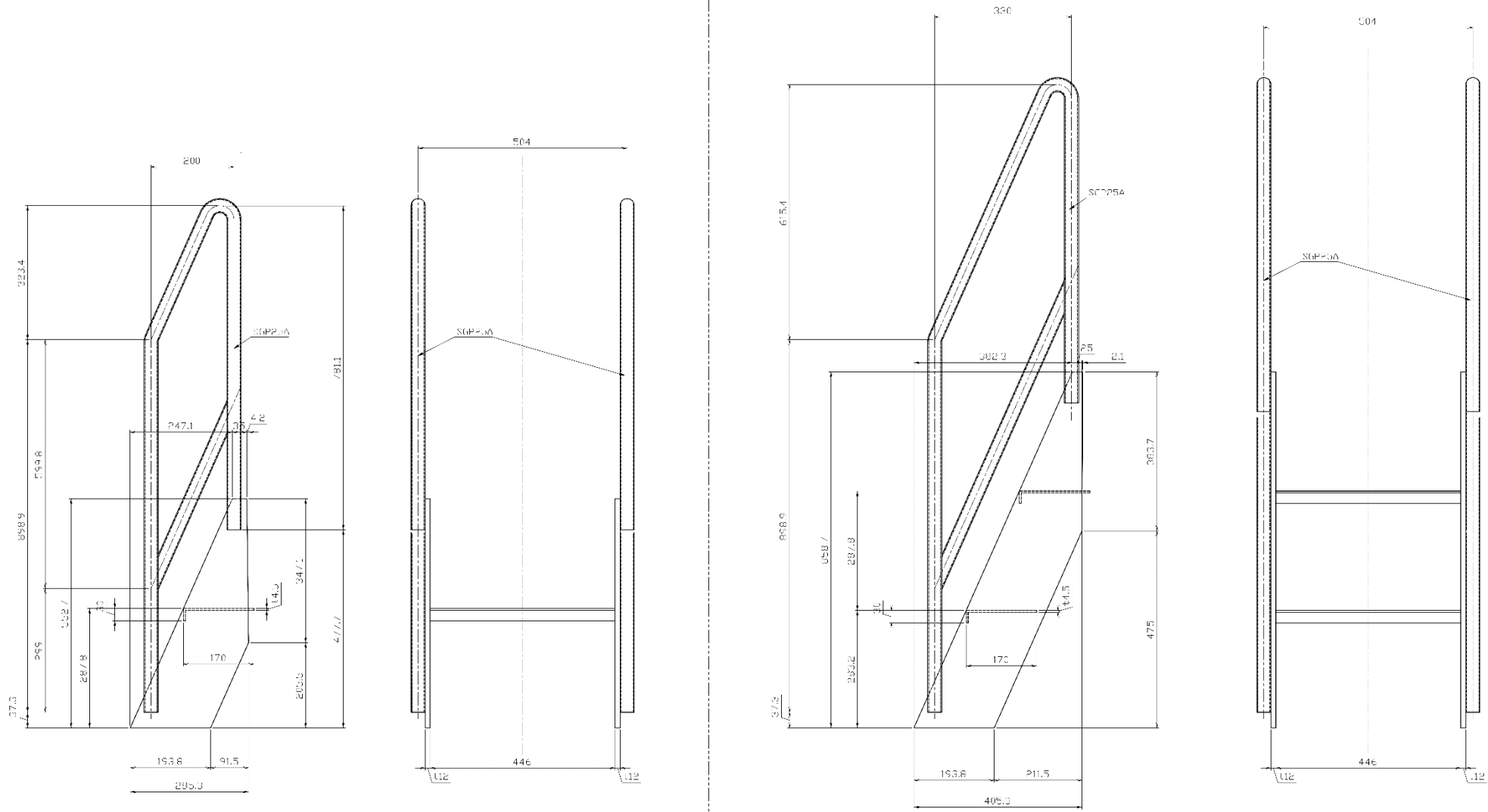


図4 急階段図面

高解像度の図面は <https://fdecomi.fukushima-nct.ac.jp/2025/stairs.png> を参照



图5 急階段

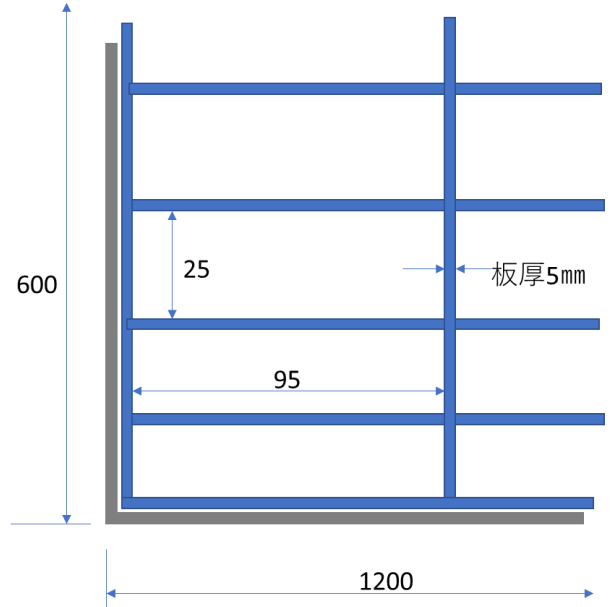
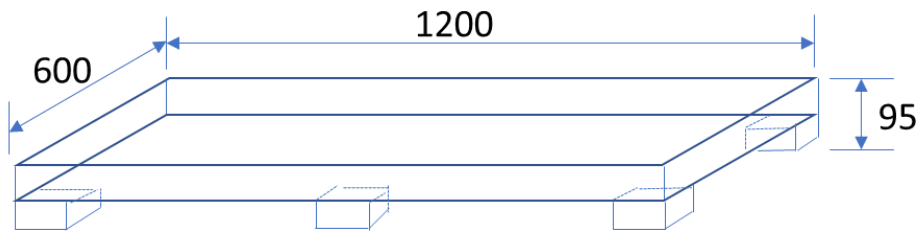


図6 グレーチング

大会で使用するグレーチングの参考仕様は下記の通り.

メーカー：カワグレ

製品名：ステンレスグレーチング(SUS) KNSG 側溝用 (FBタイプ)

KNSG P30 500×994×15

※カワグレホームページの製品ページ

<https://kawagure.co.jp/grating/#stainless>